

\*\*\*【開催要項】\*\*\*

1、趣旨・目的

不登校児童生徒の総数は2001年にピークを迎え、それ以降は横ばいの状況が続いている中で、文部科学省は平成29年度小・中学生の不登校児童数は14万人を超えたとの発表があった。この乙訓地域(向日市・長岡京市・大山崎町)においても、教育機関に相談窓口があり、各学校での対応はされている。しかし、保護者をはじめ家族は、日々目の前にいる子どもをどう理解し、どう関わっていけばよいかを、各々の家庭の中だけで悩んでいる場合も少なくない。そこで、私たちは不登校の子どもをもつ親が集まり、お互いのことを尊重しつつ、子どものこと、自分自身のこと、家族のこと、学校のことなどを安心して自由に語れる場として、乙訓不登校を考える親の会『大地』を2016年12月に設立し、月1回の定例会を開催している。

定例会では、子どもの現状を話しながら、親や家族としての思いを共有し、支援者(精神保健福祉士など)の協力も得てアドバイスを頂きながら、子どもや学校への対応について考えている。

また、年に1回、定例会に参加している家族や支援者だけでなく、より多くの人々が現在の不登校の子どもやその家族のこと、子どもを取り巻く社会状況などを学び理解する機会として、講演会やフォーラムを開催している。1年目は「不登校・ひきこもりの子どもへの家族としての関わり方ー自己肯定感を育む子育てー」と題して講演会を、昨年は不登校の子どもを抱える家族や支援者にとって、一番関心の高い、不登校を経験した当事者が語るフォーラムを開催した。当事者の当時の振り返りや今の自分についての話を聞く中で、現在不登校となっている子どもの気持ちへの理解を深め、また家族として支援者として、子どもへの関わりやどのような社会を目指していけばいいのか?を身をもって学ぶことができた。そのことを踏まえ、今年度においては、不登校当事者だけでなく、その家族も経験を語るフォーラムとして開催し、より深く『不登校』というテーマについて考えていく機会としたい。また『大地』としての活動の方向性を探っていくことも目的とする。

2、日時 2019年9月8日(日) 14:00~16:30 (受付 13:30~)

3、場所 長岡京市立産業文化会館 1階 大会議室

4、内容

不登校フォーラム Vol.2・意見交流会

『不登校ってなんだ! ? 体験者に教えてもらおう』 ~不登校を共に生きる、共に越える時をめざして~

コーディネーター: 木下秀美氏(認定精神保健福祉士、自閉症スペクトラム支援士)

教育と人間関係の相談室カナ代表)

スピーカー : 不登校を体験した当事者とその家族 4~5名(予定)

5、対象者

不登校・ひきこもりの子どもをもつ家族、子どもに関わる専門職(教諭、精神保健福祉士、心理士など)・支援者など 100名

6、参加費 一般 500円 高校生・会員 300円 中学生以下無料

7、後援 長岡京市教育委員会、向日市教育委員会、大山崎町教育委員会

助成 こくみん共済 coop(全労済)地域貢献助成金